

## 長野県支部だより

### 鈴木都美雄

#### はじめに

今回は支部長の相澤孝夫先生より依頼を受け「支部だより」を書かせていただきました。

長野県の透析医会の発足は昭和 53 年にさかのぼります。小生が長野県透析医会に参加させていただいたのは昭和 60 年頃と思います。当時の透析医会の加入施設は 30 施設だったと記録されておりました（現在の加入施設は 62 施設にのぼります）。

昭和 60 年当時は透析医会の理事会の下に

- ① 血液浄化療法標準化委員会
- ② 腎移植検討委員会
- ③ パラメディカル・スタッフ育成委員会
- ④ 腎臓病患者援護委員会

の四つの委員会がありました。当時は血液浄化療法標準化委員会で「低分子ヘパリンの使用についての指針」をどうするかを盛んに議論したものでした。

現在の長野県透析医会の構成は会長に相澤孝夫先生（相澤病院）、名誉会長に日本医師会の常任理事でも活躍され、永年本会の会長として長野県の透析医療に貢献された土屋隆先生（輝山会記念病院）、副会長に洞和彦先生（厚生連北信総合病院）、長沢正樹先生（厚生連篠ノ井総合病院）、企画担当理事として洞和彦先生、庶務担当理事として小生が任についております。

理事会は県内（南信、中信、東信、北信）の 4 地区より 20 名の理事、3 名の監事が指名されております。その下に以下の 3 委員会が置かれて活動を行っております。

- ① 保険委員会（委員長：鈴木都美雄、副委員長：神應裕先生、樋口誠先生）
- ② 災害時救急透析医療検討委員会（委員長：小口智雅先生、副委員長：笠原寛先生）
- ③ 企画委員会（委員長：洞和彦先生、副委員長：笠原寛先生）

また、長野県透析医会事務局は相澤病院内に置かれ、事務局スタッフも相澤病院の事務職員の方が兼務され、相澤会長の御好意により医会の運営も円滑に行われております。

#### 1 長野県の透析の現況

長野県透析医会副会長の洞和彦先生が長野県透析研究会誌に「長野県の慢性透析療法の 2012 年 12 月 31 日現在<sup>1)</sup>」という論文を投稿されており、現在の長野県の透析の現状を詳細に述べておられますので、引用させていただきます。2012 年末の長野県の慢性透析療法の現況は図 1 のごとくです。慢性透析患者数の推移については、患者数は 2004 年に 4,000 人を超え、年々増加し、2012 年末には 4,757 人を数えています（図 2）。2002 年からの 10 年で 830 人の増加で、年間平均増加率は 2.6% でした。全国では 3.5% であることを考えると長野県の増加率はかなり低いといえます<sup>1)</sup>。

#### 2 長野県透析事務連絡協議会について

保険委員会の下に置かれた組織に「長野県透析事務連絡協議会」があります。こういった保険請求の適正化に関する委員会は他の支部にもあると思われませんが、

1	施設数	67
2	透析能力	同時：1897 (平均 28.3) 最大：6042 (平均 90.2)
3	ベッドコンソール	1924
4	最長透析歴	42年5か月
5	導入患者	612 平均年齢 70.04 歳 (全国 68.45)
	死亡患者	565
6	患者数	
	昼間	3844 (80.81%) 全国 258131 (83.3%)
	夜間	779 (16.38%) 全国 41969 (13.5%)
	在宅	4 (0.08%) 全国 393 (0.1%)
	腹膜透析	130 (2.73%) 全国 9514 (3.1%)
	総数	4757 (100%) 全国 310007 (100%)
7	人口 100 万対比	2231.2 (全国 2431.1)
8	患者平均年齢 ( ) は全国	67.59 歳 (66.87)
9	2011 年透析導入患者 1 年生存率 ( ) は全国	86.41% (87.27)
10	2002 年透析導入患者 10 年生存率 ( ) は全国	36.2% (36.0)
11	従事者数	
	専任	866 医師 55 (6.35%)
	兼務	577 医師 147 (25.48%)
	合計	1443 医師 202 (14.00%) 全国 15541(16.2%)

図 1 2012 年末長野県の慢性透析療法の現況 (文献 1 より)

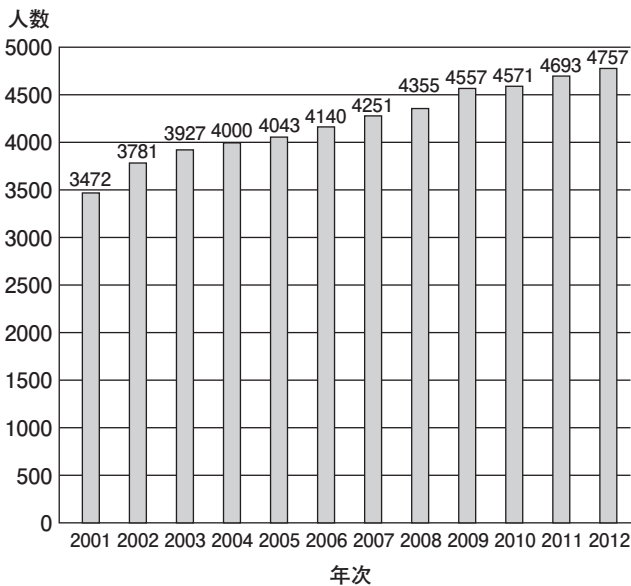


図 2 長野県における慢性透析患者数の推移 (2001~2012 年)

透析を担当する事務職のみを対象として比較的長年にわたって活動を続けた特色ある組織なので紹介させていただきます。

2-1 発足の経緯

平成 9 年 11 月、長野県透析医会の保険委員会委員

長の岡田洋一先生 (丸子中央病院), 同委員神應裕先生 (相澤病院, 現在は神應透析クリニック), 笠原寛先生 (諏訪赤十字病院) が中心となり, 保険請求の事務実務スタッフが一堂に会し, 保険請求の問題点などの話をする場を設けようという発想から「透析保険請求事務検討会」を開催することとなりました。透析を実施している県内の医療機関 (=長野県透析医会に所属している医師がいる施設) に会員を募ったパラメディカルスタッフ (特に事務方, ME・看護師を含む) の団体で, 長野県透析医会保険委員会の下部組織と位置付けられています。

平成 9 年 11 月 22 日 (土), 松本ステーションホテルにて初めての「透析保険請求事務検討会」が開催され, 平成 10 年度に会の呼称を「長野県透析事務連絡協議会」と称し, 会則を定めました。その後, 保険事務請求上の留意事項やレセプト返戻, 減点事例の検討会, 基礎的な透析療法の講演会, 診療報酬改定関係の講演会など, 年 1~2 会の会合 (総会) を開催し, スタッフの知識向上を図ってきました。

2-2 総会内容等

長野県透析事務連絡協議会は毎年 1 回総会を開き, その総会には講師を招聘し, 講演会を開催してきました。現在までにその講演会は 25 回を数え, 直近の 10 回 (第 16~25 回) の内容を表 1 にご紹介させていただきます。表にありますように, 第 19 回には日本透析医会の前会長山崎親雄先生も本会の特別講演にお呼びして平成 11 年 11 月に松本で講演していただいております。

この協議会の目的でもある透析医会の保険委員の理事と各施設の透析事務担当者とのディスカッションで, 透析における保険請求のトラブルは少なくなっていると思われます。さらには, 透析担当医師との情報交換は, 年 1 回行われる長野県透析研究会の中の医師の分科会 (短時間ではありますが) で情報伝達や質疑応答が行われております。長野県透析医会では, 県内の透析スタッフの透析技術向上や透析知識の修得のための勉強会や講演会の開催を促進するため, 申請のあった透析関係の各職種の勉強会に助成金を出して活動の後押しをしております。特に透析医療の総てのスタッフが一堂に集う, 長野県透析研究会に対する支援には力を入れております。

表1 長野県透析事務連絡協議会開催の講演会

回	開催日	講演タイトルと講師名
16	平成19年12月18日	「透析医療における保険診療の過去・現在・未来」 土屋 隆先生
17	平成20年11月11日	「透析領域における診療報酬について」 中林 梓先生 「私たちに求められる接遇とは」トラブルを未然に防ぐために 北井優子先生 「透析の請求事務Q&A」 神應 裕先生
18	平成21年3月26日	「慢性腎不全透析患者の治療の現況」 熊谷悦子先生 「医事課業務とこれからの病院事務職員の役割」 渋谷英一先生
19	平成21年11月10日	「透析と保険診療」 山崎親雄先生
20	平成22年10月15日	グループディスカッション「透析に関わる保険請求について」
21	平成23年10月27日	「透析施設における戦略的医療経営」 櫻堂 渉先生 「STOP CKD」 笠原 寛先生
22	平成24年7月17日	グループディスカッション「透析に関わる保険請求について」
23	平成25年4月11日	「透析医療の基礎知識」 熊谷悦子先生 保険請求上の注意点 鈴木都美雄先生, 神應 裕先生, 樋口 誠先生
24	平成26年7月18日	「PTA算定と3ヶ月ルール」 神應 裕先生 保険請求上の注意点Q&A 鈴木都美雄先生, 神應 裕先生, 樋口 誠先生
25	平成27年7月14日	「診療報酬と消費税の関係を考える」 石井孝宜先生

長野県透析研究会の役員のお多くは、長野県透析医会で活躍されている先生方で、県の透析医会と県の透析研究会は表裏一体となっております。

### 3 長野県透析研究会

長野県透析研究会について少し御紹介しますと、諏訪赤十字病院の元院長小口寿夫先生が永年この研究会を精力的に引張ってこられました。その後を引き継いで会長に厚生連篠ノ井総合病院の長沢正樹先生、副会長に厚生連北信総合病院の洞和彦先生、相澤病院の相澤孝夫先生、幹事に信州大学第2内科の准教授上條祐司先生、監事にまつもと医療センター松本病院の樋口誠先生と小生、事務局が信州大学医学部附属病院血液浄化療法部内に置かれております。

発足は昭和43年で、昭和58年の31回までは年に2回開催しており、その後は年に1回の開催となり、昨年の研究会は63回を数えております。特に昭和44～47年の研究会の特別講演の先生方は日本の透析医療を代表する先生方ばかりでした(表2)。その後、太田和夫先生には4回特別講演に来ていただいたりして、その他も透析医療では著名先生方をお招きして充実した内容となっております。ちなみに、昨年の第63回長野県透析研究会学術集では「糖尿病透析患者の血糖管理」というテーマで、東京女子医科大学の糖尿病センター内科准教授馬場園哲也先生を特別講演にお呼びしております。また、一般演題も53演題と年々演題数も増加しております。

表2 長野県透析研究会特別講演

回	開催年	特別講演
第1回	昭和43年	発会式のみ
第2回	昭和44年 春	前田貞亮先生 「腎不全と酸塩基平衡」
第3回	昭和44年 秋	三村信英先生 「人工透析の管理、特に貧血について」
第4回	昭和45年 春	稲生綱政先生 「腎移植について」
第5回	昭和45年 秋	三橋慎一先生 「人工腎と水電解質代謝」
第6回	昭和46年 春	平沢由平先生 「人工透析の諸問題」
第7回	昭和46年 秋	太田祐祥先生 「人工腎臓地域的態勢の必要性」
第8回	昭和47年 春	小高通夫先生・平沢由平先生 「移植透析の諸問題」

## 文 献

## おわりに

以上、長野県支部について思いつくまま述べてみました。今後、全国の支部の先生方に御指導いただき、長野県支部の発展に努めたいと思っております。御指導の程、宜しくお願いいたします。

- 1) 洞 和彦, 相澤孝夫, 小口智雅, 他: 長野県の慢性透析療法の実況2012年12月31日現在. 長野県透析研究会誌 (2015), 38, 8-11.